

研修名 管理者研修

平成 27 年 5 月 15 日 (金) 午前 10:00~12:30

講演「これからの園長・所長に求められる専門性」

—制度改革を受けて—

講師 文教大学 櫻井慶一氏

1 講演要旨

1) ①子どもの家庭の状況・・・少子化過疎化の進行で 2040 年には、900 もの都市が消滅するといわれている。その中で気になる子の増加、小学校では、校内暴力・不登校いじめの件数が 10 年前の 8 倍になり、自尊心が持てない子、自分を認められない子が増えた。私達保育士がめざすものは、希望、生きる勇気を与えていくことである。

②制度動向と保育園の役割期待の変化・・・(対応した制度変化)

1947 年～成長・発達支援

1981 年～就労支援

1990 年～少子化支援・地域子育て支援

2000 年～保護者支援 虐待の法律ができた年

1996 年より幼稚園、保育園を分けるのはおかしいとかかける。

96 年後半より、気になる子の増加、家庭崩壊がでてきた。

保育園に求められるものが多くなる。(保護者支援) 親がいきいきできていないと、子どもの発達支援はできない。保育士は、子どもの社交性をみる。一人ひとり

の能力、才能をのばして得意なものをみつけることが大切。

2) ①保育園長、主任の専門性の構造

園長、主任・・・組織、理念の実現(使命感・倫理観・責任感)

マネジメント能力(広げる、発信する力)

保育士・・・保育の専門知識・技術(子どもを温かい目でみる)

全体・・・幅広い人間性・他人への愛情・社会常識

求められる専門性①～ソーシャルワーク能力～

今までのようなカウンセラーではなくソーシャルワーク(でかけてつなぐ人)

ソーシャルワークの考え方・・・医学モデル的原因を考えてもどうにもならないことが福祉課題。どうそれを克服し、より意味のある生活をつくるかが重要。

園での保育(ソーシャルワーク)①理念(ビジョン)を共有する。

②情報を共有する。

③組織をつくる

組織・理念を実現していく。マネジメントがないとくずれていく・何のためにこの仕事をしているのか、職員のモチベーションをあげる。理念を共有していかなければいけない。保育がのびていく方法→地域の福祉でのびていく。

求められる専門性②～幅広い柔軟な保育観～

<1>子どもの立場で保育、療育の必要性、個別的な丁寧な専門的な関わり

<2>あたりまえの保育「望ましい自尊心」を育てるためには家庭と連携したお手伝い体験、地域の人とのふれあい。

<3>地域の人をつなぐ包容力、信頼される人間性

望ましい自尊心→自分も大事にされるから相手も大事にされる。

望ましくない自尊心→ぼくが一番、なんでも一番×

「よくがんばったね」「よくできたね」だけの声かけは×「ありがとう」

「たすかったよ」は自尊心が育つ。生きる力になる。

求められる専門性③～自園の保育を改めてみつめ直す～

<1>家族の絆を強めたか？＝愛着形成（先生の顔を見ると安心する）

<2>親や子の育ちの促進したのか？＝自己肯定感を高める保育, 子育て支援になっているのか？ 自己肯定感→「ありがとう」「たすかったよ」が大事。

<3>子どもたちに夢を与えられている現場なのか？

<4>本当に困っている家庭の子育て支援になっているか？

3) ①新制度とこれからの保育園（課題）

<1>保育園の3元化体制はどうなるのか

1400園→2900園（幼保連携型認定こども園）

⇓

中身がバラバラ

<2>制度の評価（少子、過疎化時代のあるべき制度, 児童福祉の意味）

<3>保育理念～保育の特性は乳児から年長までの一貫した保育が特色

「保育」概念の再検討

教育と福祉はちがう, 保育の理念は大切

↳認定こども園はこちらに近づいている（養護と教育が一体化）

*子どもは1歳半までのみきわめが大切, 関わりが大事

②運営上の観点から

<1>大規模化することの問題（保育上, 管理上, リスク）丁寧な保育のできる人数

<2>生活時間のちがうこどもがいることでの問題

<3>保育園, 幼稚園の文化が違うことでの問題

<4>保・幼・小の連携上の問題

<5>保育士不足の問題

4) おわりに～保育園はどこにむかうのか～

チャイルドビジネス 認定こども園 民間保育園 公立保育園子育て支援センター

効率性⇔福祉性

まとめ・感想

私たち保育園がめざすものは、友だちや先生といることで楽しい保育園にすること。「生きる力」ではなく「ともに生きる力」を培うことです。一人ひとりの実態と向き合い、今なにが必要なのかを考え、常に寄り添い、関わるのが大切だと感じました。自分も大事にされているから、相手も大事にできる。そんな心を育てるためには、家庭との連携、地域の人とのかかわり、保育の専門的知識など、様々な知識と技と愛情が大切です。保育現場が自己肯定感のもてるような言葉にあふれ、夢を与えられる場所になっていることが大切です。

保育園全体がどんな子どもに育ててほしいのか、理念をしっかりとって、職員全体が同じ思いで保育を共有していくことが大切だと改めて感じました。

新制度がどうなっていくのか心配なところですが、どういう形になっても、現場にいる私たちは、子どもたちの未来のためによりよい保育をしていきたいと思えます。

記録者

ひいらぎ保育園

石井 久美子

